

# 令和5年度第1回千葉県循環器病対策推進協議会に関する御意見と対応

## 1 協議会開催日

令和5年7月24日(月)

## 2 提出された意見の概要と県の考え方

No	御意見	対応
1	PCIの件数が少し減ったのが悪化傾向と評価しているが、全体の発症数がわからないので、もし全体の発症数が減っていれば、悪化とは言えないのではないか。	御意見のとおり、PCIの件数の推移が「悪化傾向」なのか「改善傾向」なのかを判断するためには、全体の発症数(患者数)も併せて把握する必要があることから、ロジックモデル外の補助指標として「心疾患の患者数」を設定します。
2	t-PAによる血栓溶解療法の件数について、急性期治療の中間目標となっているが、ここ二、三年で大きく治療方法が変わり、t-PAをスキップして、血栓回収療法を行うことが多くなる見込み。よって、次期計画では、中間目標から外したほうが良い。盛り込むのであれば、t-PAと血栓回収療法のトータルの数にしないと意味がないと思われる。	「脳梗塞に対する血栓回収療法の実施件数」及び「脳梗塞に対するt-PAによる血栓溶解療法の実施件数」は、治療法の変化や患者数の動向等の要因により増減することが想定されるため、次期計画においては、ロジックモデルに位置づけ、目標は設定しないモニタリング指標として設定します。 また、モニタリング指標の数値の推移が「悪化傾向」なのか「改善傾向」なのかを判断する一助とするため、ロジックモデル外の補助指標として「脳血管疾患の患者数」を設定します。 併せて、数値の増減の評価等については、引き続き、協議会において委員の皆様から御意見をいただきたいと考えています。
3	達成状況について、「数値未確定」となっている項目が多くあるが、いつ数値がわかるのかということに記載する方が皆さんにわかりやすいと思う。	今後、達成状況を報告する際、「数値未確定」となっている項目については、いつ数値がわかるのかを記載します。
4	公衆衛生の統計の専門家の先生等に見てもらい、指標の推移が本当に「悪化傾向」で良いのか、「改善傾向」なのか、「変化なし」なのかというのをしっかりと確認しないとデータを取っている意味がなくなると思う。	数値の推移をみるだけでは「悪化傾向」なのか「改善傾向」なのかを判断することが難しい指標については、次期計画においては、ロジックモデルに位置づけ、目標は設定しないモニタリング指標として設定します。 また、モニタリング指標の数値の推移が「悪化傾向」なのか「改善傾向」なのかを判断する一助とするため、ロジックモデル外の補助指標を設定することを検討します。 併せて、数値の増減の評価等については、引き続き、協議会において委員の皆様から御意見をいただきたいと考えています。

No	御意見	対応
5	健康寿命の延伸について、平均寿命との差がどれくらい縮まるのかということが評価になるのではないかと	健康寿命の推移の傾向をより適切に評価できるように、「平均寿命と健康寿命の一年あたりの伸び」を補助指標として設定します。
6	急性期治療の指標として、「大動脈瘤及び大動脈解離に対する手術件数」や「大動脈瘤及び大動脈解離に対する手術を実施した医療機関数」が記載されているが、急性期治療というのは、急性大動脈解離や大動脈瘤破裂等の大動脈緊急症への治療である。 今記載されている指標は、慢性期に行われる手術も含まれており、急性期医療とはあまり関係のない数字になっている。	急性大動脈解離や大動脈瘤破裂等の大動脈緊急症に対する手術件数については統計数値がないことから、国から指標例として示されており、数値を把握できる「大動脈瘤及び大動脈解離に対する手術件数」及び「大動脈瘤及び大動脈解離に対する手術を実施した医療機関数」を設定しています。
7	例えば、PCIの件数を増やす等、何かを増やすということを掲げるだけではなく、具体的にどういうことを実施し増やすのか、そこまで突っ込んだ内容のものを作っていないと意味がないと思うので、その点をご留意いただき計画を策定していただきたい。	目的と施策の因果関係を示したロジックモデルの活用により、千葉県を目指す姿、取組の方向性、施策の具体的展開が整合性のあるものとなっているか、県民の皆様によりわかりやすくお示しできるよう努めてまいります。
8	理学療法士、看護師、医師等を含めた若い先生方が、リハビリテーションネットワークを作っている。そういった活動の成果や、活動内容を、県の事業ではないが計画に盛り込んでいただけたらと思う。	多職種連携は大変重要であることから、131ページなどにその必要性や促進について記載しています。 リハビリテーションを推進する上で医療関係者の皆様に御協力いただくことは大変重要であり、具体的な取組の推進にあたり、医療関係者の皆様と連携を図っていきたいと考えています。
9	一般市民向けに心疾患や脳卒中に関する話を作成して、YouTubeに掲載する方が効果的と考えるがいかがか。	これまで県ホームページに、循環器病発症後の早期受診等を目的としたリーフレットや心疾患・脳卒中患者向け支援冊子を掲載していました。これに加え、循環器病関係団体の協力を得て、脳卒中や心臓病についてわかりやすいYouTube動画等のリンクを追加しました。
10	製薬メーカーに患者向け冊子のデータを提供して、作成してもらおうという取組もいいのではないかと。	患者向け冊子の作成における一つの手段として、今後の取組にあたり参考とさせていただきます。